

## 部長会議付議事案書（報告）

（令和5年7月4日）

提案課名 はだの魅力づくり推進課

報告者名 上松 太一

事案名	秦野駅北口周辺まちづくりビジョン（仮称）案の策定について	資料 ① 無
提案趣旨	秦野駅北口周辺の地域資源やこれまでの地域活動等の蓄積を活かしつつ、これまで以上に市民、商業者、企業等と行政が連携して、にぎわいの持続するまちづくりに取り組んでいくための指針として、「秦野駅北口周辺まちづくりビジョン（仮称）案」を作成したので、報告するものです。	
概要	<p>1 対象期間 目標年次は、概ね20年後としています。</p> <p>2 ビジョンの構成 はじめに ビジョン策定の目的、対象範囲、対象期間、位置付け</p> <p>1 地区の現状・課題（上位計画、位置・地勢、現況、ポテンシャルと課題）</p> <p>2 目指すべき方向性（社会情勢の変化・まちづくりの潮流、将来像）</p> <p>3 取組みの方向性（全体、ゾーン別、重点プロジェクト）</p> <p>4 将来像の実現に向けた公民連携の役割（公民連携の役割と体制）</p>	
経過	<p>令和3年12月 中心市街地活性化推進方針を策定</p> <p>令和4年 8月 学識経験者及び地域団体、経済団体、企業、行政で構成する秦野駅北口周辺にぎわいのあるまちづくり協議会（以下、「協議会」という。）を設置。第1回会議を開催。</p> <p>〃 8月 秦野駅北口周辺地区キックオフシンポジウム開催</p> <p>〃 9月～ 秦野市にぎわい創造検討懇話会（秦野駅）を設置し、3回のワークショップと1回の会議を開催</p> <p>〃 11月～ 協議会第2回会議の開催</p> <p>令和5年 1月～ 7部14課で構成する庁内プロジェクト推進会議の開催 3回</p> <p>〃 2月 協議会第3回会議の開催</p> <p>〃 3月 秦野駅北口周辺にぎわいのあるまちづくりシンポジウム開催</p> <p>〃 5月 協議会第4回会議の開催</p>	
今後の進め方	<p>令和5年 7月14日 議員連絡会にて報告（意見聴取は8月21日まで）</p> <p>〃 7月15日 パブリック・コメントの実施（広報はだの7月15日号掲載、意見募集は8月14日まで）</p> <p>〃 9月中旬 協議会開催</p> <p>〃 10月上旬 策定、公表</p>	

## 秦野駅北口周辺まちづくりビジョン（仮称）案について

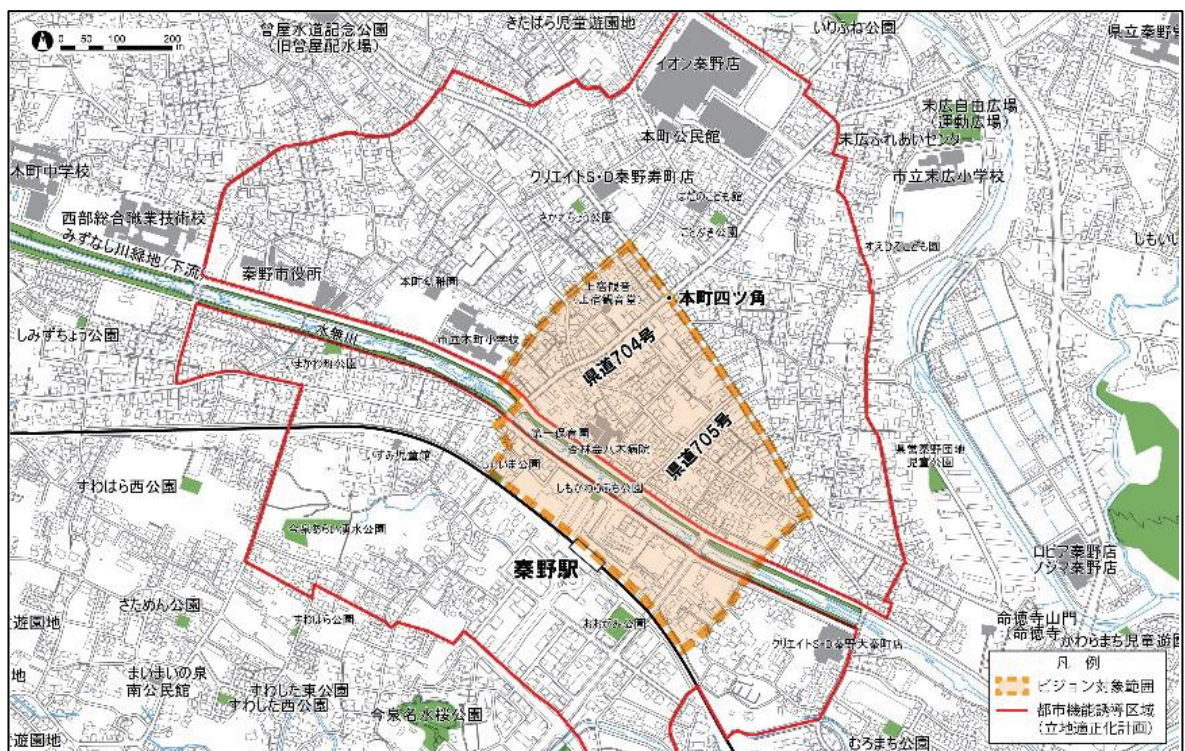
令和5年7月4日

はだの魅力づくり推進課作成

### 1 策定の目的

秦野駅北口周辺の地域資源やこれまでの地域活動等の蓄積を活かしつつ、これまで以上に市民、商業者、企業等と行政が連携して、にぎわいの持続するまちづくりに取り組んでいくための指針として、「秦野駅北口周辺まちづくりビジョン（仮称）案」を策定します。

### 2 対象範囲



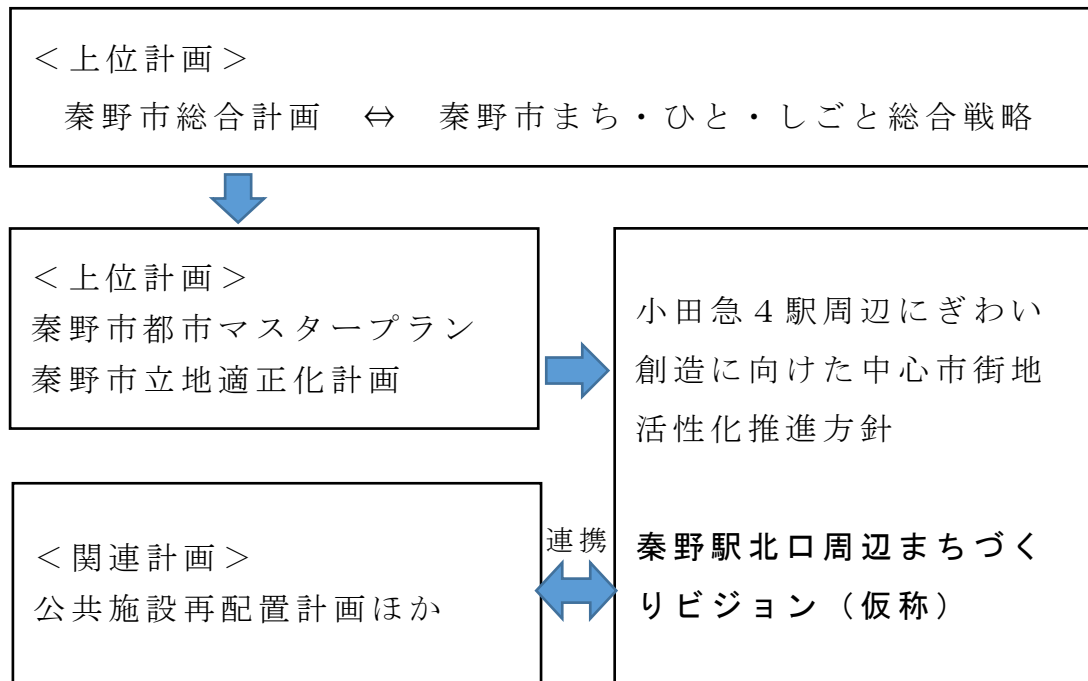
### 3 対象期間（目標年次）

目標年次は、概ね20年後としています。

※20年後の将来像を想定し、今できることを進めていくものです。活動の結果や社会の変化等に応じ、その取組み内容等については適宜見直しを行い進めるものです。

#### 4 位置付け

このビジョンは、秦野駅北口周辺地区において、上位計画に定める本市の中心都市拠点として目指す地域の姿を実現するため、市民、商業者、企業、行政等の活動が同じ方向を向き、相互に連携し、相乗的に効果を発揮できるよう、より具体的にまちの将来イメージを共有するために定めるものです。



#### 5 現状と課題

現況(データ分析・懇話会等の開催)				
<b>ポテンシャル</b>	<b>通りを中心とした空間資源</b> ・駅前広場・道路等の公共空間 ・705号沿いの空き地・残地 ・704号沿い等の空き店舗・空き家	<b>秦野名水的环境・景観</b> ・湧き水 ・落花生、お茶等の名産品 ・水無川沿いの美しい景観	<b>歴史的な場所・建造物</b> ・本町四ツ角 ・五十嵐商店 ・宇山商事	<b>まちに関わり活動する人々</b> ・商店街、自治会 ・交通事業者、JA、金融機関 民間企業 ・駅利用者（市民、来街者）
<b>課題</b>	<b>中心拠点としての都市機能の強化</b> ・空間資源等の活用による都市機能の集積	<b>人々の暮らし・活動の中心となる通りの再生</b> ・市民の交流・活動の場 ・歩いて楽しい道路空間の創出	<b>まちなか居住の推進</b> ・生活サービス機能の充実	<b>地域資源の活用による持続可能なまちの実現</b> ・秦野名水による環境・景観・既存ストックの活用

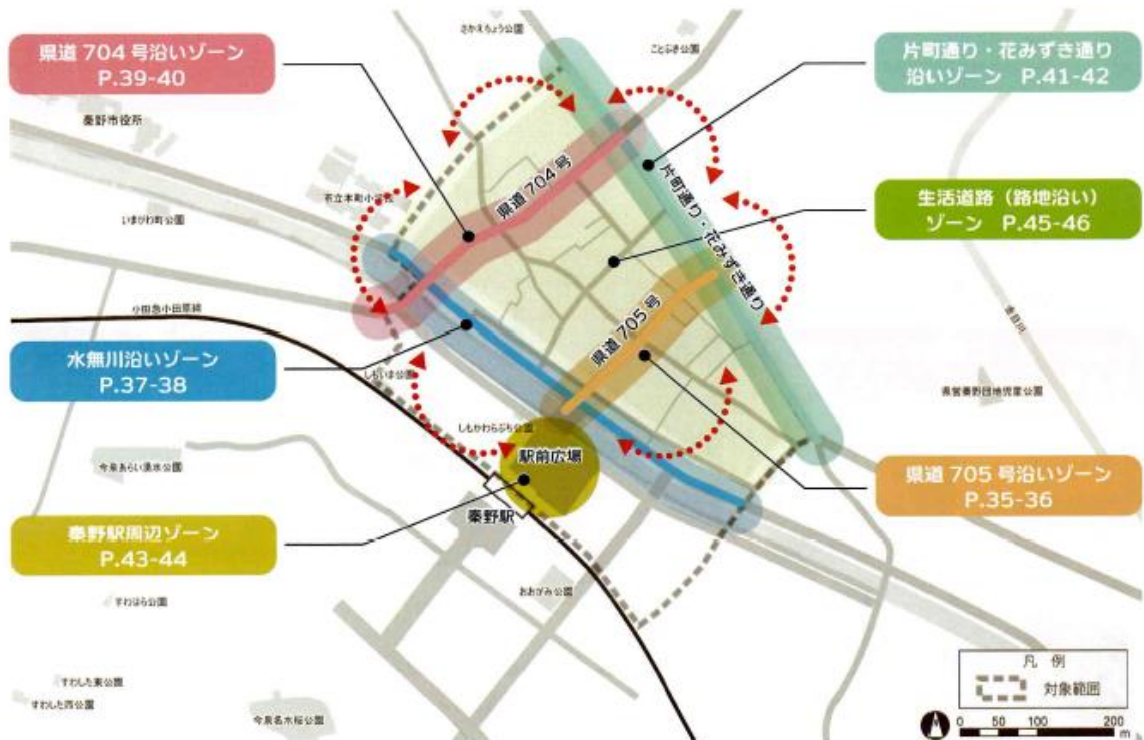
## 6 取組みの方向性





地区の将来像を実現するため、6つの取組と6つのゾーン別に方向性を示します。



### 【6つの取組み】

<p><b>はだの暮らし × 発信する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ “はだの”の美味しいモノ、楽しいコト、魅力的なヒト等の“はだの”の情報を発信する場所・機会がある。</li> <li>■ 来街者ははだの暮らしの情報や魅力を知ることができる。</li> </ul>	<p><b>空き地・空き家 × 使う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 道路沿いの空き地等は、広場空間となり、子どもたちが遊んだり、地域のサークル活動等に利用できる。</li> </ul>	<p><b>公共空間 × 憩う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 駅や主要な施設を結ぶ道路は安全に快適に歩くことができ、道路沿いには、休憩したり、会話ができる場所がある。</li> </ul>
<p><b>“はだの”人 × 交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ はだの・まちなかでお店を営んでいる人、地域活動をしている人等、“はだの”に関わる様々な人に出会い、交流することができる。</li> </ul>	<p><b>歴史的建造物 × 活かす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 歴史的な街並みをゆっくり歩いたり、五十嵐商店などの地域の歴史的な建物を改装したカフェで飲食、会話を楽しめる。</li> </ul>	<p><b>水無川の景観 × 楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水無川沿いには、安全安心で快適な歩行空間が確保され、景観を楽しむことができる。</li> <li>■ 水無川や丹沢の山々の景観を見ながら、ゆっくり過ごしたり、会話・飲食が楽しめる。</li> </ul>

### 【6つのゾーン】



ゾーン		目指す将来のイメージ	実現に向けた取組
1	県道705号沿いゾーン	名水のまち“はだの”の中核となる拠点が形成され、地域の人と“はだの”を訪れる人との様々な交流が生まれている	沿道の「交流」を生み出す仕掛けづくり 低未利用地を活用した滞留空間の創出から、「はだののまちなか暮らし」に欠かせない交流・発信拠点の形成 
2	水無川沿いゾーン	川沿いに人のための空間が生まれ出され、人々が思い思いに歩き、憩い、水のある居心地の良い空間を楽しんでいる	水無川沿いの「活気」を生み出す仕掛けづくり・川沿いに人を滞留させる場所づくり 道路など公共空間を活用した人のための空間づくりから、駅とまちなかをつなぐ豊かな景観形成 
3	県道704号沿いゾーン	沿道に小さな「たまり場」が創出され、地域の会話や交流が活発になり、活気ある日常が生まれている	沿道の「にぎわい」を生み出す仕組みづくり 沿道店舗による滞留スペースの確保から、空き店舗等を活用した交流の場所づくり 
4	片町通り・花みずき通り沿いゾーン	空き店舗を活用した拠点でお店や仕事などスタートアップを始め人々が増え、沿道に活気を生み出している	沿道を「開く」仕組みづくり 沿道全体で空き店舗を効率的に貸す仕組みづくりから、新たに店舗や拠点を開きやすくする体制の構築 

5	秦野駅周辺ゾーン	“はだの”の新たな目的地として機能し、駅前からまほろば大橋、県道705号へとつながる人の流れが生まれている	<p>駅前が目的地となる仕掛けづくり オープンスペースの有効活用から、公共交通の利用以外にも人が集まる目的地化</p> 
6	生活道路（路地沿い）ゾーン	路地沿いに個性的な店舗が点在し、沿道のポケットパークでは散策を楽しむ人々と地域の交流が生まれている	<p>個性あるまちなみづくり 空き店舗、空き地、低未利用地を利用した立ち寄りたくなるスペースづくりから、“はだの”ならではの路地空間の創出</p> 

## 7 ビジョンの策定主体と推進体制について

市民、商業者、企業等と行政を構成員として、ビジョンの協議を進めてきた「秦野駅北口周辺にぎわいのあるまちづくり協議会」を今後、まちの将来像の実現に向けた取組について協議、調整を行う場である「エリアプラットフォーム」として位置付け、このビジョンの策定主体とする。

エリアプラットフォームは、主に検討、調整の場であるため、今後の社会実験や意見交換などを進める中で、実際にまちの将来像の実現に向けた取組みをけん引するエリアマネジメント組織の組成を進める。